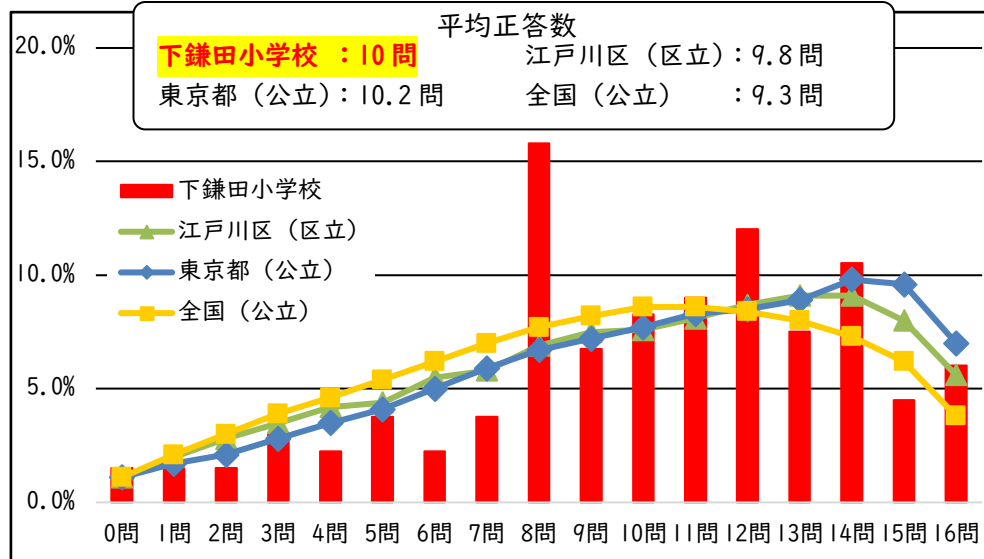


令和7年度 全国学力・学習状況調査結果と改善に向けて【算数】 江戸川区立下鎌田小学校

正答数分布



<四分位における割合（都全体の四分位による）>

算 数	上位 ← → 下位			
	A層 14～16問	B層 11～13問	C層 7～10問	D層 0～6問
下鎌田小学校	21.1	28.6	34.6	15.8
江戸川区（区立）	22.7	25.9	27.9	23.5
東京都（公立）	26.4	25.7	27.6	20.3
全国（公立）	17.3	25.0	31.4	26.3

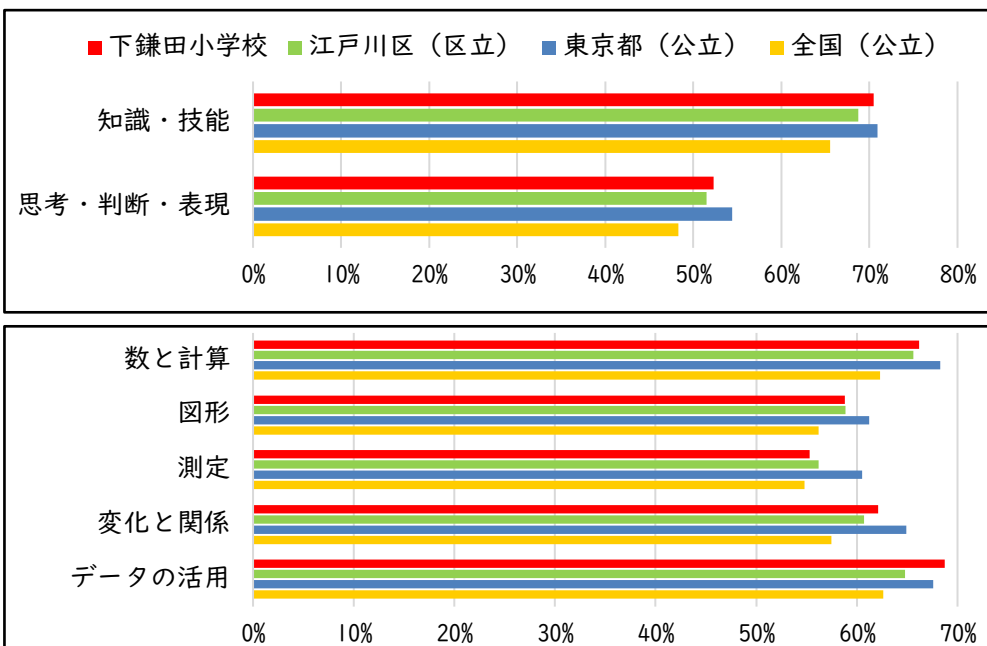
【平均正答率の差】

下鎌田小学校	62.5%
江戸川区（区立）	61.0%
東京都（公立）	64.0%
全国（公立）	58.0%
都との差	-1.5ポイント

%

四分位とは、データを値の大きさの順に並べたとき、児童数の1/4、2/4、3/4にあたるデータが含まれているのはどの集合かを示すものである。下の表では、四分位によって児童をA、B、C、D層に分けた時のそれぞれの層の児童の割合を示している。なお、本データで示している四分位は、東京都（公立）のデータを基に定めている。

「領域別」の結果



【分析結果と授業改善に向けて】

算数の平均正答率は、都平均を1.5%下回っているものの、全国平均は上回っている。

設問ごとにみると、「平行四辺形の性質を基に、コンパスを用いて平行四辺形を作図することができるかどうかをみる」という設問に対する正答率が都平均と比べ約6%、全国平均と比べても約3%低くなっている。また、全国的に課題となっている図と文章から必要な情報を抜き出して問題を解決する設問に対して、本校においても課題となっている。

演算を単なる処理で終わらせるのではなく、具体的な場面を取り上げるなどして、演算結果について量的な実感をもって振り返ることができるよう各学年で指導するとともに、問題場面を工夫し、情報過多・不足の問題から必要な情報を考える取組を意図的に取り入れる必要がある。